IgA（アイジーエイ）腎症

IgA 腎症は，我が国の慢性糸球体腎炎の中で最も多い病気です。腎臓の糸球体に免疫グロブリンの一種である IgA が沈着します。自覚症状が全くなく尿検査をしなければわからないくらいの軽い血尿だけの人から，ネフローゼ症候群や末期腎不全に至ってしまう人まで様々です。

原因ははっきりわかっていません。何らかの免疫異常が原因で，異常な IgA が作られて腎臓の糸球体にくっついてしまい炎症を起こしてしまいます。遺伝的な素因や感染症，環境因子など，発症にはいろいろな原因か関係していると考えられています。

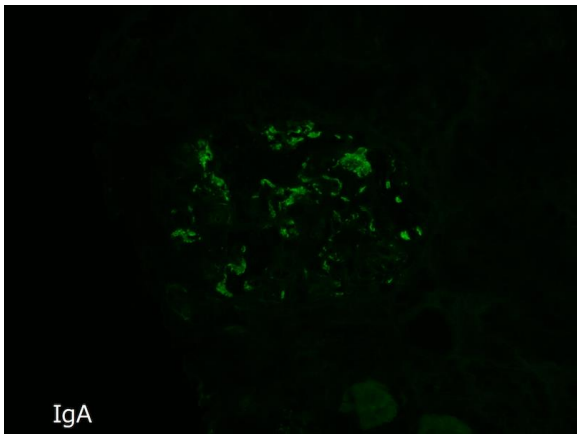
我が国では，約 33,000 人の患者さんがいると言われています（小児の発症率：年間小児人口 10 万人あたり 4.5～9.9 人）。女性では 30 代にピークがあり，男性では 10 代から 60 代まで均等に発生しています。

血尿・蛋白尿で発症することが多く，多くは学校検尿で異常を指摘されて気づかれますが，風邪を引いたときに肉眼的血尿といって黒っぽいコーラ色の尿がでることによっても発見されます。診断は腎臓の組織を直接見るために腎生検が必要になります。

治療は，蛋白尿の多さや腎生検の組織障害の結果によって，ステロイド薬や免疫抑制薬，降圧薬，抗血小板薬などを組み合わせて行います。また，扁桃腺をとる手術を行い大量のステロイドを短期間点滴から投与する治療法が選択されることもあります。最終的に早期に発見し治療を行い，病気の進行を遅らせることができれば腎不全に至る確率を減らすことができます。

自覚症状はほとんど無いので，気づかないうちに病状が進行してしまうのが怖いところです。検尿で尿異常を指摘され，特に血尿・蛋白尿の両方が陽性の場合は IgA 腎症の可能性がありますので，放っておかずに早めに医療機関を受診しましょう。

写真　蛍光抗体法（IgA）



Copyright © 2021 Japanese Society for Pediatric Nephrology. All rights reserved.